

■若手に是非読んでもらいたい本

伊藤耕三のおすすめ
東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

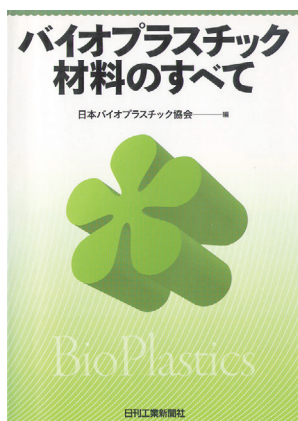
分野：一般
書籍名：困ります、ファインマンさん
著者名：リチャード・ファインマン
出版社：岩波書店
出版年：2001年
価格：1,260円

本書は20世紀最高の理論物理学者の一人であるリチャード・P・ファインマンの珠玉の随筆である。ファインマンは、朝永振一郎と一緒にノーベル物理学賞を受賞したことで日本人にとっても馴染みがあるだけでなく、最近ではナノテクノロジーや量子コンピューターを予言したことで有名である。本書では、最初の愛妻を看取る場面も感動的で涙なしでは読めないが、とくに最後のスペースシャトル「チャレンジャー」の事故原因を解明したエピソードは若い人にぜひ読んでもらいたい。内容を多く語ってしまうとネタバレになってしまうので書けないが、極上のサスペンス小説のごとく謎の解明が進んでいき、最後は本学会誌にふさわしい落ちとなっている。ファインマンは其中で科学者・技術者の役割と責任すなわち倫理観も読者に示したかったようであり、独自の事故調査報告書の末尾を次の言葉で締めくくっている。“For a successful technology, reality

must take precedence over public relations, for nature cannot be fooled. (技術が成功するためには、現実の直視を宣伝や世間体よりも優先しなければならない。なぜなら自然をだますことはできないから)”。わが国の原子力発電所の問題にも通じるものがある。もし本書に興味をもっていたら、この前に書かれた随筆「ご冗談でしょう、ファインマンさん」も合わせて読んでほしい。天才ならではの破天荒なエピソードの中に、科学者としての挟持が見え隠れし、時を忘れて夢中になること請け合いである。



■私の役に立った本

門川淳一のおすすめ
鹿児島大学大学院理工学研究科 教授

分野：高分子材料
書籍名：バイオプラスチック材料のすべて
著者名：日本バイオプラスチック協会 (編)
出版社：日刊工業新聞社
出版年：2008年
価格：2,520円

今世紀になって環境負荷の少ないバイオプラスチックが実用化されるようになってきました。今後、バイオプラスチックの重要性がますます高まるのは明らかですが、果たしてどのくらいの人々がバイオプラスチックの定義、製造方法、性質や分類を理解しているのでしょうか。そういう私も以前はよくわかっておらず、自身の研究でバイオマス高分子を使っているにもかかわらずバイオプラスチックについての知識は甚だ断片的でした。本書はバイオプラスチックについて基礎から応用・実用まで系統的に解説されており、本書の助けにより私の断片的な知識も少しは改善されたようです。

これまでに多くの合成プラスチックが開発され、私たちが豊かな生活を享受するのに貢献してきたことは今さら言うまでもありません。しかし、廃棄をはじめとした環境負荷や化石資源の大量消費の問題を起こしてきたことも事実です。私が大学

に入学した頃にはすでにこのような問題が提起され、石油化学や高分子化学、延いては化学全体が悪者のように扱われていました。研究者の努力により、このような懸念は徐々に払拭されるとともにバイオプラスチック開発も急速に進展してきました。本書を読むと、筆者たちのバイオプラスチックに懸ける思いもひしひしと伝わってきます。また本書の特により点はさまざまなレベルの読者が理解できる内容になっていることで、バイオプラスチックをこれから扱ってみたい、あるいはとりあえずどんなものか知りたいなど、種々、興味をもつ人に読んでもらいたいと思います。

